

博物館情報システム Q&A

鈴木智明 (当館情報システム担当)

はじめに

インターネットだ、マルチメディアだ、と巷で何かと話題のコンピュータ。もちろん県立生命の星・地球博物館でも様々なところで活用されています。ここではその中でもミュージアムライブラリの検索コーナーで多くの方々に利用されている博物館情報システムについて、いくつかの意見・質問などからマルチメディアを利用した新しい博物館情報の提供について再確認したいと思います。

「博物館情報システムとは何ですか」

博物館情報システムとは、博物館業務の柱である資料の収集・管理、研究、展示、広報・普及活動をコンピュータをはじめとする最新の情報機器・基盤により支援するシステムです。メインは、膨大な収蔵資料に関するデータを管理する「収蔵管理システム」、分布図などの地図情報の作成や衛星から送られてくるデータを加工し環境の状態や変遷などを調べる研究系のシステム、その研究成果をミュージアムライブラリの検索システムで分かりやすく提供する「展示情報システム」があります。また、広報・普及や図書管理を支援するシステムなど全部で8つのシステムからなります。(現在は「収蔵管理システム」と「展示情報システム」のみが稼動しています)

「この検索システムは CD-ROM で動いているんですか」

検索メニューの一つ「神奈川の自然」では、鳥や植物などの種の画像と解説、鳥に関しては分布図と一部ですが鳴き声も提供しています。このような内容のソフトは市販でも見受けられます。では、そういった市販のソフトと、この博物館独自の検索システムとではどう違うのでしょうか。実は鳥の画像や解説文などのデータは、ライブラリのパソコンにあるのではなく、3階のCPUルーム内にあるサーバと言われるコンピュータに格納されています。このコンピュータとライブラリのパソコンが同軸ケーブル(10BASE-5,T)で結ばれており、データのやり

取りをしているわけです。またこのサーバは、学芸員が普段使うパソコンや、地図や衛星画像を作るコンピュータ(ワークステーション)とも繋がっています。このことにより、例えば収蔵管理システムで管理されている位置情報から分布図を作成し、行政界地図や衛星画像などと比較し、結果を検索システムで提供することにより、自然環境の変遷が分かりやすく知ることが出来るといった学芸員の研究成果情報が、すぐに検索システムに反映される、常に最新の情報が提供できるといったシステムを目指しました。(システム間の連携については現在は未稼動です)

「ほかの博物館の情報は見ることはできますか」

残念ながら見ることは出来ません。しかし当館の情報はインターネットやパソコン通信で提供されています。博物館の概要や交通手段などの情報は、小田原市のホームページ(URLは <http://www.space.ad.jp/vcity/Odawara/Museum/index-j.html>。ただし96年6月頃に変わるかもしれません)や国立科学博物館のホームページなどで紹介されています。また、収蔵資料の一部、魚の生態写真や標本写真などをデータベース化した「魚類写真データベース」の一部をパソコン通信(COPERNICUS:株式会社ケイネット)で提供しています。

将来的には、神奈川の自然などの検索システムや収蔵資料データをインターネット上などで提供したり、他の博物館との情報ネットワークを構築したいと考えています。

「このシステムはどのような人を対象にしているんですか」

ミュージアムライブラリにおいて私たちは、自然についてより深く知識を得、高度な学習をも進めたいという方に応えるため、図書等の学習利用の環境整備と併せてこの情報システムの整備を進めてきました。ここでは、利用者自身がパソコンを操作して必要な情報を検索します。図書館で必要な文献



神奈川の自然一鳥：鳴き声も聞けるよ

を調べるように、目的を持って情報を得たい、じっくりと何度も利用する、という人を対象としています。

「CD-ROM には出来ないのですか」

検索システムを CD-ROM にして、学校などで教材として活用したいという意見がありました。また、収蔵システムの一部を CD-ROM にして博物館外で学芸員が利用するといった活用方法もあります。ネットワーク以外にもこのように有効な情報伝達手段があれば、いろいろと利用したいと考えています。なお CD-ROM 化についてはぜひ実現したいと考えています。

「情報システムの今後は」

検索システムは、「相模湾の魚」と、県立歴史博物館のメニューである「絵馬の検索」を今回、新たに追加しました。メニューは今後も増やす予定です。また収蔵資料に関する情報の整備も続けています。将来的には他の博物館や教育施設等、各家庭とのネットワークを構築したいと考えています。

最後に

情報がデジタル化したことにより、表現方法や利用方法が大幅に拡大しました。図鑑から鳥の鳴き声が聞こえたり、図録や目録、論文等の情報をキーボードを叩くだけで得られるなど紙からデジタルへと変わることによる利便性は皆さんよくご存じだと思います。日進月歩に進化する情報環境に合わせて利用者のニーズも拡大します。博物館は今後のそのようなニーズに応えるため博物館情報システムを中心に情報提供基盤の整備を進めて行きます。